

ティーチング・ステートメント

所属 看護学科
名前 久保田直子
作成日 2023年3月22日

【責任】

現在、看護学科に所属し、専門科目である在宅看護学を中心とした教育活動をしている。主な教育活動は、在宅看護学援助論や在宅看護学援助論演習、在宅看護学援助技術論、在宅看護学実習、生活機能と形態機能学、生活構築論を担当している。また、看護総合実習や卒業研究、就職活動の支援をゼミ生に行っている。

【理念】

一つ目は、看護は専門職であるため学生にはプロフェッショナルを目指す者として、自ら課題解決に向けて考え抜く力を育てほしいということである。看護師は対象者をより健康な状態へと導いていくことが求められており、対象者の状況について専門的知識を活用して判断し、今何をすべきか考え行動するという看護実践能力を発揮しなければならない。そのため、看護基礎教育においては対象者の状況を正しく捉え、判断するための基礎的な知識がベースにあることが必須である。さらに、多様な状況にある対象者の看護を行うには、考える引き出しを多くもつこと必要であり、そのためには自ら積極的に学習し、多面的な物の見方を身につけ、解決するための力や発想力を養うことを目指していきたい。

二つ目は、対象者に関心をもて、相手の立場に立った考え方や感性を育てほしいということである。看護は人々を対象としており、病気や年齢が同じであっても対象一人ひとり生活背景など状況が異なるため、看護を個人に合わせて変化させていかななくてはならない。その時に、対象者一人ひとりに思いを馳せ、自分の価値観のみに捕らわれるのではなく、相手の気持ちに寄り添える感性を磨くことが重要である。

三つ目は、看護の面白さや奥深さを感じ、看護を探究し続けることの必要性に気づいてほしいということ（想像→創造へ）である。看護は多くの人が経験しない人の生命や生活などの深い部分に立ち入り健康を支援する職業である。そして、理論と技術に裏付けされた看護によって患者をより良い状態へ変化させることができる。そこに看護の魅力ややりがいがあるが、人々の生命や生活を護る専門職者としてより良い看護について探究し続けることの重要性に気づいてほしい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために「知識の定着を促す」「自己学習を促す」「考える力を養う」「多面的な見方を養う」「対象者の思いを推察する力を養う」「看護に興味・関心がもてる機会をつくる」という方針で教育を行っている。

「知識の定着を促す」：理念1

- ・授業では初學者の理解を助けるために話す内容の順序性や構成には気を配り、できるだけ分かりやすくかみ砕いた説明をするようにしている。また、看護の実践において科学的根拠が重要になるため、説明をするときにはなぜそのように行うのかという根拠（理由）を伝えるようにしている。資料やスライドは「分かりやすく、美しく」をモットーにしている。
- ・授業の最後には小テストを行い、内容の理解度の確認し、さらに解説を加えている。
- ・小テストでは国家試験問題を取り入れ、低学年から国家試験に向けた学習を意識している。また、参考書の紹介をしている。

「自己学習を促す」：理念 1、理念 3

- ・ 自宅で復習する習慣をつけるためスライド資料などには参考文献や URL などを必ず示すようにしている。また、直接教科書を使用しない場合は、教科書のページを示している。
- ・ 時にはテキストの内容を確認し、一緒に考えることをしている。
- ・ 卒業研究は一緒に研究のプロセスを踏みながら、自分で調べること、自分の考えをまとめることの重要性を伝え、課題解決のための姿勢が身に着くようサポートしている。

「考える力を養う」：理念 1、理念 3

- ・ 授業では学生が質問や意見をいう機会を設けており、何を発言してもよいこと、間違ってもよいことを伝え、質問内容は学生全体で共有するようにしている。
- ・ 授業の中で対象者をイメージできるように必ず事例を示し、事象から何が言えるのかなど考える時間を設けている。また、実際の物品を見せたり、画像をみせたり工夫している。
- ・ 在宅看護学の演習においては訪問看護のシミュレーションを通して学生同士が意見交換することにより問題意識を持ち、より良い看護を考えられる場としている。

「多面的な見方を養う」：理念 1

- ・ 授業の中でグループワークを取り入れ、自分の考えと他者の考えを比較し、課題解決に向けた工夫を考える機会にしている。
- ・ 実習においてはカンファレンスを行い、学びを共有している。
- ・ 多面的な見方や考える力を養う上ではルーブリック評価を用いて意識できるようにする。

「対象者の思いを推察する力を養う」：理念 2

- ・ 授業の中で他世代の生活背景を伝え、事例を示して身体面だけでなく、精神面や社会面への影響を考えさせている。また、実際に教員が関わった対象者とのエピソードを紹介している。

「看護に興味・関心がもてる機会をつくる」：理念 2、理念 3

- ・ 看護が面白いと思えるように概論や援助論においては、自分事として捉えられるように、できるだけ現在日本で起こっていることを踏まえて分かりやすく説明する。
- ・ これまで関わった対象者のエピソードを踏まえて教員の看護実践や研究などの取り組みを伝え、看護に対する興味・関心がもてるように心がけている。

【評価・成果】

- ・ 授業アンケートでは約 9 割の学生は興味や問題意識を持ち、授業に意欲的に取り組んだと回答があり、その他の項目でも「そう思う」「非常にそう思う」の合計が 80% 超えていた。
- ・ 在宅看護学の授業では、コロナ下での訪問看護場面を想定して ICT を活用した授業を行った。また、一部の学生が実習室で訪問看護のシミュレーションを実施し、その映像を他の学生がリアルタイムで遠隔教室にて視聴後、互い意見交換するといった授業を展開したが、学生には一定の学習効果があり、対面以外での授業方法の幅が広がった。
- ・ 卒業研究で担当した学生は、研究の一連のプロセスを踏み分らない点を実証していくことの重要性、難しさ、楽しさを感じつつ、論文として纏められたことに達成感を感じていた。
- ・ 本学の看護師国家試験の合格率は平均以上をキープしている。

【目標】 1 年後

- ・ 専門職者としての実践能力を身につけるための効果的な授業を設計し、実施する
- ・ 授業評価アンケートにおいて「非常にそう思う」25%以上を目指す
- ・ 最新の看護、教育、研究に関する情報を適宜収集する